

平成 27 年度第 2 回御前崎市総合教育会議議事録

日 時 平成 27 年 11 月 20 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分

場 所 御前崎市役所 301 会議室

出席者 ○出席委員 御前崎市長 石原 茂雄
教育長 篠田 暁美
教育委員長 吉村 勝
教育委員 伊藤 博之
教育委員 田代 富美子
教育委員 紅林 幸枝

○欠席委員 （なし）

○事務局 萩原教育部長、河原崎社会教育課長
長谷川学校教育課長、伊村教育総務課長
松本教育総務課長補佐、高塚総務課課長補佐

会議日程

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 協議
御前崎市教育振興基本計画（大綱）案について
5. 閉会

傍聴者 なし

1. 開会

○萩原教育部長（進行）

ただ今から第 2 回御前崎市総合教育会議を開催いたします

本日の議題は、「御前崎市教育振興基本計画について」でございます。それでは開会にあたり、市長からご挨拶申し上げます。

2. 市長あいさつ

○御前崎市長

改めまして皆様こんにちは。

今年も残すところ 1 ヶ月余りとなりまして、寒さも厳しくなってくると思いますが、月日が経つ速さを実感しているところでございます。

本日は、教育委員の皆様にはご多用の中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。日頃、皆様方におかれましては、学校教育や社会教育においてご尽力いただいていることに対しまして、この場をお借りして心からお礼申し上げます。

現在策定中の第 2 次御前崎市総合計画では、将来都市像を「子どもたちの夢と希望があふれる御前崎」とし、教育分野の目標は、子どもから大人まで学ぶことを通して郷土に誇りと

愛着をもち、これからも住み続けたいという気持ちを育むとともに、御前崎の未来と己の人生を切り拓いていく力を持った人を育てていくよう、「郷土を愛し 未来を創る人づくり」となっております。

今の御前崎市教育委員会が推進している「スクラム・スクール・プラン」は、新総合計画においても教育施策の根幹を成すものと思っております。御前崎市ならではの教育システムとして県内外においても注目されているということに対し、大変うれしく思っています。

特に御前崎の教育委員会がここに来て大きく変わってきた、と多くの皆様から言われます。教育長、教育委員長をはじめとしまして、多くの教育にかかわる皆様方が、御前崎の子どもをどうするのかという中で積極的に取り組んでいただいているということに対しまして、心から感謝申し上げます。大事なことは、今、少子高齢化が進んでいまして、どうしても少子化に歯止めをかけていかなくてはならない、それには何をしたらいいのか、ただあれもやるこれもやるだけでは歯止めにならないのではないかと感じます。今後、第2次総合計画を策定していく中で、また、教育委員会と歩んでいく中で、今後の子どもたちをどうしていくか、忌憚のないご意見をいただいて、それをしっかりと御前崎の教育に盛り込んでいただければ非常にありがたいと思います。

本日は、時間も限られておりますが、皆様方と忌憚のない意見を交えたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○萩原教育部長

ありがとうございました。続きまして、吉村教育委員長をお願いします。

3. 教育委員長あいさつ

○吉村委員長

改めましてこんにちは。

本日は、第2回目の総合教育会議ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。今日は、大綱ということで、教育の基本の路線を引いていく前段階の協議をしていただくということです。特に今、市の総合計画に「子どもたちの夢と希望があふれる御前崎」というキャッチフレーズが頭についています。要するに子どもに視線を当てて、市のまちづくりをしていくことと私は受け取っていますが、そういう中で、なおさら私たちに与えられた職務の中で、子どもの教育をどうしていくかということが大変重要になってくると思います。今日は、ここに案ができておりますが、ぜひ市長さんにご教示いただきながら、皆さんで協議してよりよい大綱になっていけたらと思います。よろしくお願いします。

4. 協議

・御前崎市教育振興基本計画（大綱）案について

○萩原教育部長

ありがとうございました。ここで今日の日程について説明させていただきます。会議の所要時間は1時間程度を予定しております。

はじめに教育長から「御前崎市教育振興基本計画」の案につきまして説明いただき、その後、委員間協議に入っていただきます。それでは教育長よろしくお願いします。

○篠田教育長

よろしくお願いします。第1回の会議で、教育大綱につきましては市長さんから教育委員会に任されましたので、私から案として提案させていただき、今日は市長さんのお考えをお聞きして、これでよかったら、第3回に向けて正式なものを出していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それでは1ページ目、御前崎市教育振興基本計画（簡略）でございます。簡略化したものを大綱といたします。そこに書いてありますように、第2次総合計画の将来像に向けて教育委員会では、御前崎の教育を「スクラム御前崎」と名付けました。その計画の期間は10年間ですが、年度ごとに見直しを図っていきたいと思っています。

今日は大綱ですので骨子しか書いてありませんが、この基本計画を作るにあたって勘案した事項として、2ページ目をお開きください。本市教育の現状と課題ということで、良い面もいっぱいあるのですが、とりあえず課題だけを上げさせていただきました。1点目は、市長さんもお話いただいたように少子化の問題です。合併当時より小学校で22%、中学校で14%減少しております。5年後を見通したときは、中学校で合併当時より25%の減少が見込まれています。この少子化の波は、少子化だけではなく核家族化や家庭教育の問題への影響も大きな課題としています。

2点目は、本市には大変大きな課題となる不登校児童生徒の出現率の問題です。児童生徒の数が減少傾向であるにもかかわらず、不登校児童生徒の出現率は、平成21、22年ごろに一時下がったのですが、このごろは増加の一途になっています。家庭教育の問題、貧困化の問題、核家族、発達障害の不適応、人間関係の希薄等それぞれのお子さんによって様々な問題が背景にあります。

3点目は、特別支援学級の在籍数です。発達障害で困り感を感じている児童生徒ですが、3ページ目にグラフを載せました。合併当時から特別支援学級の在籍数が小学校で1.7倍、中学校で1.6倍に増加しています。この在籍数は、不登校児童生徒と同じように他市と比べて大変高い率になります。特に発達障害で困り感を抱えています、その背景に家族の愛着障害、人間関係の希薄化が障害に大きな影響を及ぼしていると考えられています。これらのことを踏まえて御前崎の教育は、1つ目は、乳幼児から社会に出るまで一貫性をもたせること、2つ目は、多くの人と関わり人間関係を大切にする教育をすること、3つ目は、多くの人の力、地域の力を借りて、御前崎の子どもは御前崎のみんなで育てる気概を持つこと、4つ目は、大人が見本を示すことのできる人になること、5つ目は、地域とつながる体験や活動を重視し、御前崎に誇りと愛着を感じる人を育てること、を勘案して作成しました。そして最後に、まちづくりも人づくりもこれらの大きな課題を感じると少し暗くなるのですが、そうは言っても、この課題を頭に入れながら、みんなが夢を感じられるようにすることが大切であると考えます。

それではA3の資料をご覧ください。これまで「郷土を愛し、未来を創る人づくり」でやってまいりましたが、この目標で今後も10年間続けていきたいと考えています。その「郷土を愛し、未来を創る子」の大きな4つの具体像として、「高い志や夢を持って生きる子」、「学び続ける子」、「他者と豊かにかかわる子」、「社会とかかわっていく子」を具体的な姿とさせていただきました。この4つの姿を目指して、「スクラム御前崎」と名付け、スクラムプランで子どもたちの育成を図ってまいりたいと思います。

細かく説明すると時間がかかりますので、主な点だけ説明させていただきます。市長さん

にお尋ねしたいのは、1点目は、具体的な姿を4つに絞りましたが、その4つについてよろしいかどうかということ。2点目は学校教育のところですが、やはり、乳幼児教育から一貫性を持たせて学校教育を行っていくのですが、学校教育のところで一番大事なことは、子どもたちに基礎基本の知識・技能を持たせること、思考力・想像力を育てること、主体的に人・社会とかかわる力を育てること、この3つの力をつけて社会人として送り出すことが必要ということから、御前崎に一番必要なことは、3番目の「個にきめ細やかに対応する教育環境の体制づくり」です。これまでも学習支援員が他市より大変多かったり、学力向上コンサルタントをつけてくださったり、さまざまところで予算を大変つけてくださっていて、今年度は「しおかぜ先生」を導入していただいた。そういうきめ細やかさは本市の特徴でもあります。また10年間に向けて、しおかぜ先生を拡大して導入していくこと、学力向上コンサルタントを引き続き行うこと、それから子どもたちの学習能力を上げていくためにも、学校司書を増加していく等の予算の配慮をよろしくお願いしたいと思います。

3点目は、教育環境のところですが、浜岡中学校の校舎建替え、御前崎小学校のプール移転、浜岡保育園の民営化、給食センターの統合につきましては、10年間の内に実現を目指していきたいと願っています。

以上簡単ですが大綱といたしまして、ただいまより教育委員長さんから順番に、この大綱についての補則説明をよろしくお願いします。

○吉村委員長

目指す子どもの具体的な姿として4つ掲げていますが、これでいいかということですね。「高い志や夢を持って生きる子」というのは未来志向というか、ちょうど市の都市像のスローガンに非常に近いものだと思います。「学び続ける子」というのは、生涯学習として学習を捉えて、得た知識をどう生かして、あるいはどのような目的で生かしていくかということだと思います。これは学校教育だけでいえば、学力の問題と大きく関わってくると思います。「他者と豊かにかかわる子」というのは、これは人間性のことだと思います。相互関係の中で関わり方がわかるというか、折り合いができるというか、そのように人間性豊かに育てていくということだと思います。「社会とかかわっていく子」というのは、多様な社会性を育てていくということ。いろいろな地域あるいは地域の人、家族、友だち等と関わりながら社会と関わっていく、あるいはもっと大きく言うと国際的なことにも関わっていく、そういうこともある程度視野に入れて育てていく、そういうことだと思います。私はそのように押さえていますが、やはり直接関わっていくのは、学校教育の中でこれをどう生かしていくかということだと思います。

○伊藤委員

「高い志や夢を持って生きる子」、「学び続ける子」、「他者と豊かにかかわる子」、「社会とかかわっていく子」とありますが、少し思ったことは、もう一つ他の言葉があってもいいのでは、ということです。それは、「感謝をしたり、思いやりのある子」、そういうことも必要ではないかということです。この4つは大変よいのですが、他にもそのような日本人らしい考え方の子どもに育ててほしいという思いがあったものですから。

それから先ほど市長さんが言われたように、この町の人口が減少していく一つの原因としては、産業が欠けているのではないかと。産業の部分にもっと力が付いていけば人を呼び込むことができる。ですからそのあたりの基本的な部分が何かこの町には欠けている、みんなが

もっと前向きになって、この町から外に出て行って仕事を取ってくるんだ、というような前向きな気持ちがこの町には欠けているのではないかと、思いますので、そういったことがもう少し充実されることによって、子どもの人口も増えていけるのではないかと、というようなことも思いました。

○田代委員

1点目は、私はなぜ「子どもたちの夢と希望があふれるまち御前崎」というのが一番大きなテーマになっているのか、ということです。教育というより、そこをもう一度立ち止まって考えてみました。子どもたちが夢や希望を持てるような、御前崎という社会を創りだそうという強い願いを込めたものではないかと思いました。なぜかというと、子どもたちの原風景になるのが、ここの日々出会う人たちです。出会う大人たちはいいな、すごいな、この町でやっていることはすごくいいよ、というようなこと、それから、こんなことをしたよ、ああいいな、私もああいうふうになりたいな、そういった人やことやものと直に出会えるのが御前崎の自然であり、人であり、行事とか環境だと思います。今はパソコンとかですぐに見られますが、一番子どもたちの心を揺り動かすのは、目の前で見られる原風景だと思います。だから、この10年先を見通した計画というのは、「子どもたちの」が頭にあるけども、本当は、では大人はいったい何をしたらいいのか、ということ問い掛けている計画だと私は考えてみました。先ほどの教育長さんのお話しの4点の中に、それが含まれていると思います。そういう意味で教育に目を向けたときに、教育行政の課題というのは何かと思って、一番は、子どもというのは放っておいても成長する部分というのがあると思います。その子どもならではの持っている可能性やエネルギーはすごいものがあるから、放っておいてもある程度成長していくものだと思います。でも適切な時期に適切な指導をすることにより、子どもはもっと伸びるということを大人が忘れていないだろうか。過度にやり過ぎたり、逆に本当に子どもに何も手を掛けないでいる、そういうことがさっきのグラフにも課題となって出ているのではないかと。だから御前崎に住む大人の意識改革を教育行政の中でやっていく必要があるということと、少子高齢化については、この前いろいろな資料を見させていただいて、こんなに子どもを産める女性が減っていくのか、どんどん人数が減っているという、ものすごい危機感を覚えました。では行政に携わっている末端の人たちは、そこを危機としてとらえているかどうかということを、根幹に考えていかなくてはいけないと思いました。

もう一つは課題というより予算と裏腹の部分だと思いますが、たとえばここに来るまでの間にも畑があります。御前崎の人というのは、黙々と働いている部分がすごくあると思います。この間まで草が生えている畑ばかりだと思っていたが、次に通ったらびしっと種がまかれて緑があって、その次にまた通ったらすごく大きくなっている。黙っている中でそうやって仕事をして、物を作りだしていく姿というのは、ものすごく素晴らしい姿だと思いますが、逆から見ると、毎年毎回同じで安定の中に安住しているような恐れもないだろうか。だから違いがある相違というものを受け入れる風土というものが少し薄いのではないかと。それもつけていく必要があるのではないかとというようなことを課題に思いました。その解決には新しさを取り入れる必要がすごくあると思います。「スクラム御前崎」と掲げたことも、他では小中連携とか、静岡市でいろいろなことをやるというってニュースで取り上げていますが、私は、御前崎の学校体制が御前崎の子どもたちに合った「スクラム御前崎」というのを立ち上げたことは大変いいことだと思っています。積み重ねることによって自信になっていくし、何よりもこ

の2年間で先生達の意識が変わってきたことは感じます。自分たちの口から、連携をもっとしていくことで子どもの力をつけていくということがあるので、この「スクラム御前崎」の意味がすごくあるのではないかと思います。もう一つは、10年先、15年先を見て最新の全国的視野を持つ奈須先生にずっと10年間来ていただいて、資金面でも市で予算をすごく取ってもらっている、ここから得られる情報というのはすごく大きいので、それがこの中に込められている部分がすごくあるので、そこをすごくお伝えして分かっていただきたいと思います。

○紅林委員

親として思うのは、教育を充実してほしいということはすごくあります。この「スクラム御前崎」に書いてある4つの具体的な姿は、これは親の願う子どもの姿だと感じていて、10年後、20年後にこういう目指す姿で育った子どもたちが、社会のためとか人のために役立つ仕事がしたいと思う人間になってほしいということはすごく思っています。子どもが生まれて、幼児期の時の大切な教育、小中学校に入って大切な教育、それが連携して一貫性を持ってやっていくことが、自分が子どもを育ててきた中で、それがとても不可欠なことだと感じています。少子高齢化についても、自分が2人目を産むときにすごく不安がありました。やはり、一人っ子より二人の方がいいと思う気持ちがあったのですが、育てていけるのかとか、経済的なこととかいろいろなことを考えたときに不安に思うことがあって、それを不安に思わずに産んでしまえば何とかなるのですが、それなりに大変なことはたくさんあって、それを行政の方に相談することができているのかなと思うと、皆さんなかなかそうでないと思うし、ここに書いてあるいろいろなことをやっていく中で、数をたくさんやるよりも、一つ一つの質が向上していくともっといいのかなと思いました。

○篠田教育長

教育委員からの提案は以上です。

○萩原教育部長

ただ今、この4つの目指す具体的な姿について、この会議で合意をしてこれで進めるかどうかということが議題として上がりました。市長、いかがでしょう。

○石原市長

確かに目標を「子どもたちの夢と希望があふれるまち御前崎」にしたというのは、我々が子どもたちのために、子どもたちの未来のためにしっかりと目標をつくるのが大事だということです。その中で、「高い志や夢をもって生きる子」の下にある「家庭教育支援員の配置」というのは今までなかったですね。今の親は何もかも学校や行政の責任にする傾向がありますが、子育てはまず家庭からだと思いますので、家庭教育支援員というのはいいいえだと思しますので興味を持っています。

それと「生きていく力の基礎の育成」の中で、「早寝・早起き朝ごはん」とありますが、私は、朝ご飯を家族一緒に食べてもらいたいというのは全員一緒だと思います。お父さんが仕事で朝早ければ、子どもも早起きして一緒にご飯を食べればいい。私が子育てしていく中で一番思ったことは、子どもの帰りが遅い時は、私と妻はご飯を食べずに待っていて、お前が早く帰ってこないからご飯を食べなかったよというような教育をしてきました。そういった何か家庭というものが、子どもと一緒に歩む姿勢であることが大事だと思います。

それから「充実した教育環境」の中の浜岡中学校の建替えとか、プールの移転とかいろいろな問題がありますが、第2次総合計画の中で取り組んでいきたいと思っています。そういっ

た中で給食の関係ですが、思い切って給食費を無料にして、子どもの発育に力を入れてバランスのいい食事を提供するとか、そういったことを考えていく時期ではないか。それが少子化の歯止めになればありがたいと思いますが、あるいは給食を半分にしてお母さんのお弁当を持たせることも大事だと思います。

もう一つは生涯学習のところで、公民館活動のあり方については教育委員会で徹底的に考えていく必要があると思います。地域での生涯学習をどうやっていくのか、今のような環境ではできないので、思い切って市から職員を出すとかして変えていかないといけないと思います。

それと図書館についてですが、これだけのりっぱな図書館があるのでもっと利用してもらいたいと思いますが、どうすれば子どもたちに本を読む習慣をつけることができるのか教えてもらいたいし、やっていかななくてはならないと思います。

それと国際交流基金についてですが、私は池高や御中の子についても出してあげればいいと思っています。ぜひ、子どもたちの国際交流のために、牧之原の子や池高の子にも出してあげて、少しは負担金を払ってもらうにしても、御前崎の子だけよくなっても仕方がないので、そこのところはよく考えてもらいたいです。

もう一つは、英語の力を伸ばすとか、全部の子にパソコンを持たせるとか。部長、以前私がそういうことを言いませんでしたか。

○萩原教育部長

市長からそういうお言葉が出たということは聞いておりますが、全部の子がいきなりパソコンを配布されて、それを十分に使いこなすことは困難で、なかなか投資額も大きいものですからまだ検討中となっています。

○石原市長

その時は、まだ先生がパソコンを使いこなせないのも先生から勉強させていくとか、電子黒板もまだ使いこなせないのもとか言っていましたが、子どもはスマホやパソコンを遊び心でどんどん覚えていくので、ある程度そのようなものを取り入れていってもいいのでは。

○萩原教育部長

ただいま、市長からいろいろと問題提起がされました。そのことについて、協議をしたいと思います。

○吉村委員長

先ほど公民館のことが出ましたが、今度12月に移動教育委員会で公民館長さんと意見交換をする予定となっています。やはり公民館の一番の目的は、生涯学習の推進ということになると思います。今は言われるように公民館活動の足並みが揃っていない。実際の公民館活動からややかけ離れたようなところもあるようです。そういうことを考えていかないと、いつまでたっても同じ繰り返しなので、段取りをしっかりと、市と相談しながら、なたを振るところは振っていかないと改善していかないと。市として、どういう公民館活動をしていきたいか、そこをしっかりと押さえていく必要がある、その第一段階として12月の意見交換会があると思います。その時には一方的に話を聞くだけでなく、こちらの考えも出していく必要があると思います。

○萩原教育部長

公民館を地区センターにというような話も耳にしますが、そういう観点で伊藤委員さん、

どうでしょう。

○伊藤委員

今、公民館でやっていることが御前崎地区と浜岡地区ではかけ離れていて、公民館が本来どういうものなのかよくわからなくなっています。私も地元の公民館に所属していますが、一方的に流されてしまっている感じがします。やはり、市の職員が大々的に公民館に絡んでいくべきだと思いますし、間違ったことには市から強く指導するべきだと思います。

○萩原教育部長

公民館の問題につきましては、12月に移動教育委員会で公民館長との話し合いの場を持つということと、公民館というものが社会教育法の中で決まった役割を持った組織ですので、御前崎市として、ずっと公民館というものに固執するべきなのか、ほかに地区センターとか公民館ではなくそれぞれの地区の施設ということも含めて、検討に入ったばかりでございますので、そういう話し合いの中で出たことについては、市長に報告して判断を仰ぎたいと思いますのでよろしくお願いします。

先ほど市長から国際交流基金についてお話がありました。今は御前崎の小中学生に使わせていただいておりますが、使い方について拡大的な提言が出ました。田代委員さん、どうでしょうか。

○田代委員

私はとてもありがたい提言だと思います。今年、オーストラリアに行かせていただいた人から聞いた話ですが、先ほど私が違いと相違を受け入れる風土と言いましたが、浜中の子どもや藤枝の私学に行っている子ども、それと御中の子どもが交流でオーストラリアに行ったのですが、内容が物見遊山でなくものすごいプログラムが組まれていて、泥だらけになって山を登って、自分たちで乗り越えなくてはならないような課題があったようです。そうしたら、そういう中で始めて会うような子たちが過ごしたので、それから帰って部屋の中でやるようなプログラムをするときに、非常にいい人間関係ができた。ほんの数人だけどこれはすばらしい交流だとおっしゃっていたし、もう少し範囲が広がればいいねという声もお聞きしました。もうひとつ面白かったのは、浜中の子は確かにあいさつとか行儀が悪い、けども皆を集めて仲間にしてしまう、そういう良さを持っている。御中の子はあいさつもして、きちっとしているが、そういうところに自分から入っていく部分が少ない。けども一緒にやろうよと囲まれていって、お互いにいいところが出し合うことができたというのは、まさに、外国の子との交流だけでなく、市内の子同士の交流ができたので、それに少しでもお金を掛けさせていただければ、ものすごくいい機会になると思います。

○萩原教育部長

ありがとうございます。先ほどの市長からのお話しの中で、パソコンを一人一台ということがありますが、そのことについてはいかがでしょうか。

○篠田教育長

菊川市では学校に40台とかタブレットを用意して進めていて、菊川市の授業も見させていただきました。御前崎市も考えていない訳ではないのですが、今買うのが少し早いのではないかと、もう少しタブレットの操作が簡単になってから導入しても遅くない、というように勉強していきまして、機能がもう少しスムーズに動くようになってから購入してもいいかなと思います。今、御前崎の教育で進めていることが確かに機械に通じるようになれば、それもと

でも大事なことです。御前崎の小中学校の子どもたちを見たときに、きちっとした基礎・基本の力を身に付けて、昔から言われている読み書きそろばんはきちんと定着させたい、その上で思考力、創造力を育てたい。それには、市長さんが言われたように、家庭教育が一番の御前崎の課題です。家庭に何かしてくれとお願いすることはできませんが、学習習慣、生活習慣がもう少し全体に広がっていただければいいかなと思っています。それが、ＩＣＴで変わっていくかという、そこはもう少し待っていただきたい。今、教育総務課と話し合っているのは、子ども会議をＩＣＴでできるという話を昨日聞いて、今、御中と浜中の子がグッドマナーについて２回ぐらい話し合いをしています。それで、中学生が各小学校に出向いて、御前崎のグッドマナーはこういうことです、ということを発信しました。その移動時間が長いので子ども会議ができないかと聞いたら、今は簡単にできるということです。そういうことから固めていきたいと思っていまして、確かに他の市ではタブレットを使った授業をしていますが、導入に際しても、今、北小にＩＣＴの支援員がいますが、研究をきちっとしたい、でないと機械に頼った授業になってしまうということが懸念されます。というのは、どうしてこんなところで機械を使うのか、というような授業を観ました。それなら手の方がよほどいいといった授業もありますので、確かにこれからは使わせていただきたいのですが、少し考えていきたいということと、子ども会議のようなこと、それから職員同士の会議にネットワークを広げていくことを考えているところです。

もう一つは、市長さんが言われた家庭教育支援員のことで、実はこれは県から来ていまして、今２名います。これは社会教育関係で家庭教育支援員を作れということで配置されています。その支援員を育てることと、支援員が何をするのか決めるのは市の仕事だと放り投げられていて、現在模索中です。たった２名で家庭教育の何ができるのか。県が予算を出して、市が採用するのですが、今、元園長２名を配置しています。その２名が園に入って活動するということですが、もっとほかのことが考えられないか。たとえば、気軽にそこへ行けば子どもの悩みを相談できる「子育て相談カフェ」とか、子育て支援センターがこども園にありますので、そこへ行って保護者の要望や悩みを聞くとか、そういったことができないか社会教育課にお願いしていますが、模索中です。

○石原市長

私は、字のごとく家庭教育のことだと思っていました。登校拒否の子がいるとか、給食費の未納があるとかの家庭に支援員が行って、民生委員ではないけど、子どもを育てていくのにお母さんはどんなことに苦労しているの、とか、そのように親身に相談にのってくれるものだと思ってこれはいいなと思ったけど、園長ＯＢが園に入ってやるだけでは何か物足りなく感じます。

○篠田教育長

ですから別の方法でやっていただけないか、社会教育課にお願いしているところです。講演会をやっても人は集まりません。私が思うに、親学講座と称して子どものおやつ作りとか、時にはそのようなことを取り入れてやっていかないと。生まれたときから生活習慣は決まってしまう。そこがこの市の一番の問題です。

○石原市長

それは人を増やしてもすべきだと思う。母子家庭でお金をもらっている家庭が、子どもを実家に預けて、夜は水商売に勤めているようでは駄目だと思う。

○伊藤委員

教育委員会でも準要保護の認定の際、それが話題となります。母子家庭でも本当に別れているのか、書類上でも疑問に感じることがあります。家庭というものをもう一回見直して、そこをうまく教育できるかによって、御前崎市が今後成り立っていくかどうかの瀬戸際ではないかと思います。

○田代委員

ある市では、学校は、来てもらいたい、家庭教育の話を聞いてもらいたいような親は来てくれないと嘆いているばかりで何も解決できない、じゃあ私たちが出向いていこうということで、核になる家庭教育支援員がいて、そのほかにボランティアを募りながらすごい改革をしたという事例の話を聞いたことがあります。今、支援員2名を育てていくのは市の仕事ということを聞いて、ぜひこの2名の方には、課題がはっきりしてくれば、それに対するプランを立てていただいて、単に幼稚園に入って受け身で待つて聞くのではなく、この人たちをどうやって活かしていくか楽しみです。

○篠田教育長

それと市長さんから給食費の未納問題について、無料化あるいは半額化の話がありましたが、いろいろな家庭と付き合ってきた結果、無料化にするからその家庭が本当にしっかりやってくれるかというところではなく、逆にそのお金を自分たちの遊びに使ってしまうような家庭がけっこう多いです。そういう未納の家は、別のことにお金を使うことが多いです。何台も車を持っていたり、家を新築しても給食費は絶対払わない、といった家庭もあります。無料にすれば子どもたちは助かりますが、価値観の違いがすごく大きくて、無料にしたからといって子どもたちの生活習慣が違う方面に出てくるので、そこをどうしたらいいか、いつも悩んでいます。

○石原市長

たとえば週2日をお弁当の日にしたら、お弁当を持ってこない子がたくさん出ますか。コンビニ弁当とかになりますか。

○篠田教育長

給食時間の間際に、学校にお弁当が届くようになるとと思います。

○萩原教育部長

今日は市長からいろいろな提案をいただき、各委員さんからご意見をいろいろお聞きしましたが、新しい総合計画の実施計画の中でも、ハード面で課題になっています浜岡中学校の関係について、教育委員会でも前回その話をしましたが、いかがでしょう。

○石原市長

浜中の建替えについては、補助金の返還はないということで、これは我々がどうのこうのではなく、教育委員会と保護者、こういった関係者でしっかり論議していく中で、出しているといいと思います。

○萩原教育部長

今までもこの問題が出ると、必ずもう一つの学校の話が付いてきて解決が難しく、なかなか次に進まなかったものですから。先ほど市長がおっしゃったように補助金の返還もないし、国からもらえる補助金の額も、今の形だと目いっぱい貰えるであろうと、ある程度財源の担保も見えてきたものですから、もうひとつの学校とは切り離して、浜岡中学校は浜岡中学校

単独で、建替えて舵を進めていくということで教育委員会としては、ある程度合意をしていますが、いかがでしょうか。

○石原市長

いいと思いますが、とにかく御中の保護者に最大の配慮をしてもらいたい。せっかく合併してここまで来て、浜中だけ建替えして御中は置いていくのかということにならないように。両方同じようにスタートを切るとか、難しいかもしれないがぜひそういう形でやってもらいたい。

○萩原教育部長

中学校の関係については、また教育委員会から市長にいろいろと相談させていただきます。今の教育に対応するには難しい教室の配置の問題とか、昭和 30 年ごろの建物のため、なかなか大変な問題を抱えていますので、これはいつまでも待ってられないということで、方向としては新しい計画にも載せさせていただきましたので、またご相談させていただきます。

○石原市長

ひとつお聞きしたいですが、たとえば浜中、御中それぞれで作るとか、組合立を廃止して佐倉あたりに作るとか、御前崎中として 1 つの大きな学校にするとかいろいろな方法があると思いますが、御前崎地区の委員さん方から見てどう思われますか。

○吉村委員長

確かに学校組合というのは、行政にしても教育環境にしてもやり難いと思います。万が一、組合立をやめるとしても、浜中とは別の新しい学校を 1 つ作った方がいいと思います。

○田代委員

私もそう思います。800 人のマンモス学校でいろいろな問題を抱えているような現状を考えると、やはり、一人一人を大切にしていってほしいという思いからすると、すごい無理が出てくるということと、もう一点は、市内に中学校が 1 つより 2 つあった方が、風土の違いがあるものが互いに切磋琢磨していけるようにした方が、両方が育つのではないかと思います。

○萩原教育部長

それと先ほど触れました給食センターについてですが、今もだましだまし修繕をしていて、修繕がだんだん多くなってきていますので、統合ということを新しい総合計画にも載せさせていただきましたが、市長、そういう方向でよろしいでしょうか。

○石原市長

それは統合して、真ん中に建つのが一番いいと思います。場所はよく検討してもらって、建つなら早く進めた方がいいと思います。

○萩原教育部長

細かい相談については、別途、課の方から相談させていただきます。

○石原市長

もう一つは、御前崎公民館の移転の予算を、新年度予算に載せましたか。

○社会教育課長

市長のお話をいただいて、公民館長と地元の方がみえられまして、この間、話をさせていただきました。まず、地元の意見を集約してくるということで、いったんは話をしましたが、予算的には移転場所が決まり次第、調査費を付けていきたいと考えています。

○萩原教育部長

社会教育課長から話がありましたように、今、地元の方に投げかけてありますので、今の予算編成のぎりぎりの中で予算付けしてそれができるのか、再来年になるのかというのは見極めさせていただいて、予算要求させていただきますのでよろしくお願いします。

それでは、教育大綱の基本計画の4つの柱については、こういう方向性で進めるということで皆さんのご同意をいただいたということによろしいですか。

○篠田教育長

先ほど伊藤委員さんから「思いやりと感謝の心をもつ子」ということで話が出ましたが、それは「他者と豊かにかかわる子」の中に、多くの他者と豊かに関わることによって、その中で人間関係づくりが一番の基で、感謝の心とか思いやりの心を持ちながら人間関係を築いていただければどうかと思っています。具体的な姿がたくさんありますと、少しぼけてしまうことがありますので、そういう方面で御前崎の子には人間関係がへたな子どもたちがいるので、そういったことを考えて、そこに含めさせていただければと思いますが、市長さんのお考えで4点でよいということならば進めさせていただきたいと思います。

○萩原教育部長

それではありがとうございました。皆さまからのご意見をいただいたということで、これをもとに案を進めさせていただきます。

それでは本日の協議・調整事項につきましてはこれで終了しますが、何かこの場で各委員さんからありましたらご発言をいただきます。

○篠田教育長

ひとつよろしいですか。さきほど市長さんから、お弁当を持ってくる日という話がありましたが、これはすごく重要なことでして、親がお弁当を作ってくる日ではなくて、子どもがお弁当を作ってくる日というのを推奨している人が県内にいまして、それで子どもたちに食のありがたさとか、お弁当を作る大切さとか、そういうことを提唱している方が実はいます。それを実践している学校がありまして、小でも中でも高でも真似してみたいと思っていますが、学校が賛成してくれれば1回はやってみたい、とにかく親が作るのではなく自分でお弁当を詰めるか、作ってくるかということで、それはとてもいい案だと思います。

○萩原教育部長

ほかによろしいでしょうか。それではこの関係につきましては、次回も引き続きまして、「御前崎市教育振興基本計画」並びに「教育大綱」を主題としまして、年度内にもう一度開催させていただくということによろしいでしょうか。

それでは具体的な日程につきましては、事務局で調整をして改めてご連絡させていただきたいと思います。最後に市長からまとめを兼ねまして閉会のご挨拶をお願いします。

5. 閉会

○石原市長

たいへんお疲れ様でございました。第2回となります御前崎市総合教育会議でございますが、それぞれ各委員さんから積極的なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。本当に皆さんが子どもたちの健やかな成長を願っていただいているということを実感い

たしました。今後も教育委員会と行政がお互いに足並みを揃えていく中で、御前崎市の発展は子どもにあると考えながら進めさせていただきたいと思いますので、今後ともご協力の程よろしくお願いしまして、閉会のご挨拶とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○萩原教育部長

以上で、第2回総合教育会議を閉会といたします。